



# ほのぼのせや

<http://seyaku-shakyo.jp/>

承認●瀬谷区第17号



## 令和元年度 瀬谷区ふれあい助成金 137団体に総額 10,526,000円を助成しました。

この助成金は、みなさまからの賛助会費・共同募金・地域福祉推進基金などを活用して、地域福祉の活動を応援しているものです。(単位:円)

I. 要支援者支援区分		II. 障害者支援区分		III. 福祉のまちづくり区分	
街のつどいの広場 ほっとカフェ	400,000	瀬谷金曜会	80,000	音声訳グループ つくしの会	50,000
はつらつクラブ	180,000	ふれあいサロン左馬	80,000	アノの会	15,000
音楽のたまご	120,000	カフェスマイル	80,000	むつみ会	50,000
健康長寿サロンピンコロ会	120,000	サロンよってB	70,000	いちごクラブ	80,000
コスモサロン	120,000	相沢ふれあいサロンI	70,000	にほんごせや	40,000
サロンよってA	120,000	喫茶パンパー	70,000	国際交流Seya	40,000
にこにこ会	120,000	楽老ハイソ自治会 楽老サロン	70,000	ゆうスリー	40,000
マークサポート支えあい	120,000	サロン「なかよし」	70,000	かたり部「わ」の会	40,000
第一サロン	100,000	サロン旭台	63,000	子育てサロンえむ	40,000
ユートピアすこやかサロン	95,000	認知症カフェ カフェド・せや	50,000	あくわキッズみなみ	40,000
喫茶だんらん	80,000	ふれあいサロンド瀬谷	45,000	TEAMドルフィン	40,000
相沢ふれあいサロンII	80,000	サロンスマイル	40,000	グループ・男の手貸します	160,000
阿久和北部連合さくらんぼの会	80,000	ハッピーダンス	40,000	瀬谷第四地区女性のボランティア	160,000
阿久和生利りハビリはまなすの会	80,000	ほっと三ツ境	40,000	ふれあいネットワーク	40,000
あやめ会	80,000	ひるラジ楽老会	40,000	はあとの会	40,000
歌声ラウンジ宮沢	80,000	健康体操やまゆり会	35,000	配食サービス「たんぼほの会」	300,000
おとなり会	80,000	ふれあい健康サロン	30,000	配食木曜の会	300,000
お仲間サロンひなたぼっこ	80,000	瀬谷どんぐりの会	33,000	配食サービス火曜の会	300,000
カフェすずらん	80,000	サポートクラブ ニュータウン	16,000	配食サービスかしわ会	240,000
北新サロン	80,000	だれでもサロンー福	16,000	宮沢配食部会	120,000
元氣倶楽部	80,000	うたごえひろば	20,000	特定非営利活動法人 せや	250,000
サロン「北の宿」	80,000	グリーンカフェ	240,000	NPQ法人 あんたて女性サポートセンターIndar(インダー)	30,000
サロンスプリングガーデン南瀬谷	80,000	ハンドメイドカフェ	120,000	NPO法人 楽竹会	40,000
サロンふらっと宮沢	80,000	ほっこりカフェ	80,000	瀬谷区傾聴ボランティア・えがお	40,000
サロン細谷戸運営委員会	80,000	みやざわ倶楽部	80,000	瀬谷区相撲甚句会	40,000
サロン楽々	80,000	スマイルハーモニー	41,000	横浜西アコーディオン愛好会	40,000
南部にこにこサロン	80,000	下瀬谷こども食堂実施委員会	300,000	リ・ブックセヤ	40,000
ひなた山サロン井戸端	80,000	このは会	80,000	ウクレレ友誼会	40,000
ふれあい音楽塾	80,000	宮沢ひまわり給食会	80,000	瀬谷プラス	40,000
ほっとサロンゆうあい	80,000	ラッキー	80,000	IV. 健康増進区分	
ほのぼのサロン	80,000	相沢ふれあい食事会	50,000	北新健康麻雀	10,000
本郷サロン	80,000	阿久和南部高齢者食事会	50,000	いきいき健康本郷四丁目ランドゴルフクラブ	10,000
モボ・モガ 喫茶	80,000	阿久和北部 子ども食堂 大カレーパーティー	50,000	ニッ橋第二カラーリング	10,000
ゆうぎりサロン	80,000	阿久和北部お楽しみ食事会	50,000	町ぐるみ健康づくりの会	10,000
ゆうゆうサロン富士見台	80,000	すまれ会	50,000	ユーカリの会	10,000
		瀬谷第一あじさい会	50,000	ユートピアさわやかゲームクラブ	10,000

## 瀬谷区ふれあい助成金 活動団体紹介

### みやざわ倶楽部

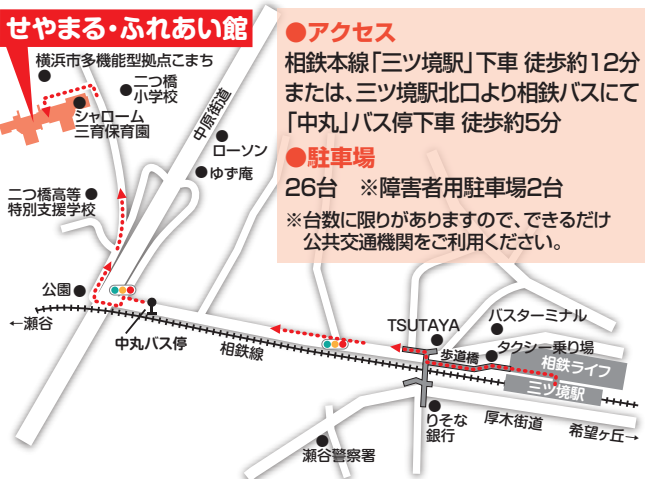


みんなで作成した手作り籠

宮沢地区は全ての自治会館でひとつずつサロンがあります。その中で最後にたちあがった、できたてほやほやの新しいサロンが「みやざわ倶楽部」です。文化活動の日と運動の日とがあり、体操をしたり手作り籠を編んだり、和気あいあいと過ごしています。新サロン誕生のさらなるPRのため、地域の夏祭り「みやざわサマーフェスタ」で倶楽部として初めて出店もしました。当日はサロンで作った作品の販売のほか、ミニ体験コーナーも! スタッフさんの丁寧な説明とあたたかい対応に、思わず話も弾みました。

「縦に長い地区だからこそ、歩いていける場所にサロンが点在しているといい」という声があり、宮沢のサロンは全部で6か所になりました。町の特性を活かした活動が広がりを見せています。

活動場所 ● 睦ひばり会館  
活動日 ● 毎月第4木曜 13:30~15:00 (8月・12月を除く)  
参加費 ● 200円  
※手芸作品を作る場合は材料費あり



開所時間  
■ 横浜市瀬谷区社会福祉協議会 月~金曜日 / 8:45~17:15  
■ 瀬谷区ボランティアセンター 月~土曜日 / 9:00~17:00  
■ 瀬谷区福祉保健活動拠点「パートナーせや」 月~土曜日 / 9:00~21:00 日曜日・祝日 / 9:00~17:00 (年末年始を除く)

編集後記  
平成23年3月11日の東日本大震災後、瀬谷区社協が実施している釜石市へのボランティアバスは平成23年12月の第1回から今年で9年18回になります。瀬谷区社協では当初から10年間続けることを決めています。復興も進み、交流も深まっていることもあり、お互いの負担にならない程度でボランティアバスを続けられることを検討したい。(遠山委員)

広報委員会  
委員長 ● 水村 明 (瀬谷第一地区社協)  
副委員長 ● 紅林 千津子 (相沢地区民児協)  
遠山 丈晴 (瀬谷第四地区社協) / 飯塚 陵子 (ワーカーズわくわく) 堤 順子 (瀬谷区発達障害理解啓発グループ ant mama)

## Q 改めて... 社会福祉協議会ってなに?

A それは... 誰もが安心して暮らせる地域社会をつくる活動を進めている団体 のことです

みなさんが暮らしている地域では、ちょっとした助けを必要としている人や、困りごとを抱えている人など、さまざまな福祉課題・生活課題を抱えている人がいます。社会福祉協議会(以下社協)は、地域全体をより良くするため、住民のみなさんや社会福祉法人、NPO、行政など、いろいろな団体とネットワークをつくり、地域の困りごとを解決しています。



### 瀬谷区社協

一番大切なのは... 社協の活動には、地域のみなさんの協力が必要不可欠です!

主な取り組み

- ★ 福祉教育の実施
- ★ 助成金の配分
- ★ 広報啓発活動
- ★ あんしんセンター
- ★ 外出支援・送迎サービス
- ★ 移動情報センター
- ★ 生活福祉資金の貸付
- ★ 福祉保健活動拠点「パートナーせや」の管理運営

地区社協

地域住民に最も身近な社協として、地域の方々が「自分の地域は自分たちでよくしていこう」という気持ちで組織された団体です。瀬谷区内には12の地区社協があります。



# 子どもは地域の宝物



●目指すべき姿● 未来を創る子ども・青少年の一人ひとりが、自分の良さや可能性を發揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓く力、ともに温かい社会を作り出していく力をはぐくむことができるまち「よこはま」(横浜市子ども・子育て支援事業計画より)

## 子どもたちに「福祉のきもち」を育もう

福祉は「ふだんのくらしのしあわせ」と言われます。子どもが自分の「幸せ」を考え、「福祉感」を育むことが大切です。同じ地域に暮らすさまざまな人から学ぶことによって、子どもたちにとって地域が今まで以上に身近に感じられることとなります。また、子どもたちにかかわる地域の人にとっても、地域への関心が膨らみ、新しい「顔の見える関係」を作ることとなります。

### ●福祉教育に協力いただいている方の声●

私たちのグループは、「みんながってあたりまえ」というテーマで、区内の小中学校にて障がいの福祉教育講座を行っています。地域にはいろいろな人が自分と同じように住んでいることを知ってもらうことで、「だれもが暮らしやすいまちづくり」を考えるきっかけになればと思っています。  
瀬谷区発達障害理解啓発グループ ant mama 堤 順子



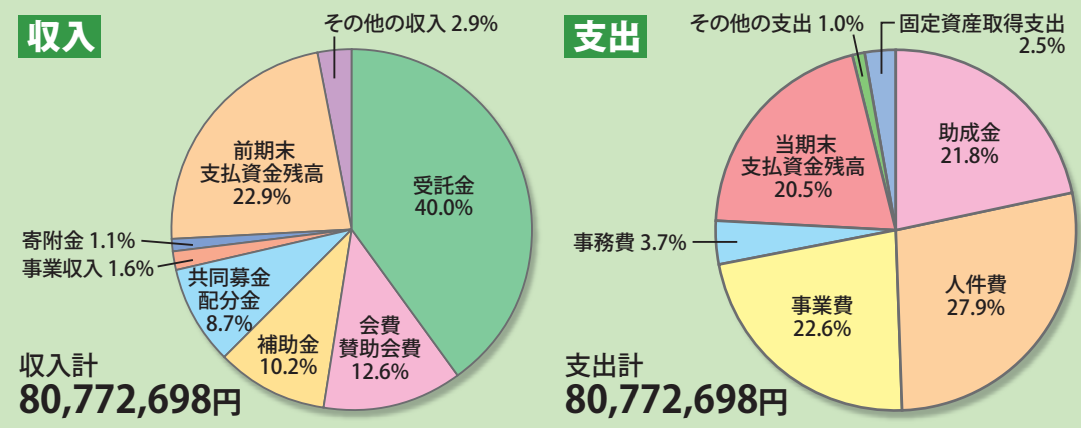
### ●学校と地域での取組の例●

- 地域理解のために まちかど探検・施設訪問
- 高齢者理解のために 車いす体験・認知症を知る学習
- 障がい者理解のために 当事者の話を聴く
- 多世代交流のために お祭り・見守り活動・ボランティア

◆福祉教育サポーター養成講座  
学校で行う福祉講座でのお手伝いをさせていただくボランティアを募集しています。今回、車いす操作体験の講座を行います。  
日時●11月20日(水) 13:30~15:00  
場所●特別養護老人ホーム愛成苑(瀬谷町4131-16)  
10月15日(火)から受付開始  
申込・問合せは区社協まで(045-361-2117)

## 平成30年度 瀬谷区社協 決算報告

瀬谷区社協では皆様からのご協力を受けて、様々な事業を展開しています。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。  
詳しくは、区社協のホームページに掲載しています



10月1日から「赤い羽根共同募金」がはじまります。ご協力をお願いいたします。(この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています)

## 報告 その1 東日本復興支援 ボランティアバス報告 「忘れない」という想い 今年で9年目

日程●令和元年8月9日(金)~8月11日(日) 参加者●37名(一般11名、高校生22名、区社協職員4名)  
2泊3日(含車中1泊)



ボランティアバスは今年で9年目です。はじめはガレキの撤去や海岸清掃、復興支援のイベントのお手伝いなどを行ってきました。復興が少しずつ進み、「被災地を忘れない」、「震災を風化させない」ことを目的に活動を行っています。  
今年は震災学習列車に乗り、三陸鉄道の職員から震災当時から今までの状況について聞きました。震災や津波の経験から学んだことを教訓に、その土地で生活している人たちの想いや強さを感じながら、釜石駅に到着。  
昨年度に引き続き復興住宅(嬉石県営第2アパート)の集會場で、嬉石町の皆様との交流会を行いました。交流会では、横浜ご当地芸人として活躍している「横浜ヨコハマ」の二人を中心に、横浜隼人高校の生徒の企画による「横浜クイズ」と「ボラバスビンゴ!」などで、笑い溢れる時間を過ごしました。

学生主体の企画は今回が初めてでしたが、高校生たちの元気溢れる姿に交流会参加者全体で盛り上がり、企画は大成功。現地の方が五目ご飯やわかめ汁等をふるまってくさり、皆で舌鼓を打つというサプライズもありました。また、今年も県立釜石高校の生徒が3名お手伝いに来てくれました。  
最後に輪になって瀬谷音頭を踊り、交流会を締めくくりました。別れ際には、「また来るね」「また来てね」と自然に挨拶を交わしている姿が印象的でした。  
来年10年目になり、瀬谷ボランティアバスも一区切りとなります。移住先でのコミュニティづくり等課題もまだまだありますが、ここで出来たつながりを引き継いで、来年のボラバスを迎えたいと思います。



芸人「横浜ヨコハマ」による交流会の様子



瀬谷音頭の様子

### 参加者の感想

- 「心の復興」を学ぶことができました。
- 震災を振り返っていく大切さを学びました。
- 釜石市の方が気さくに話してくれたことがうれしかったです。
- 住民のみなさんの明るい笑顔を見られたことがうれしかったです。
- 私達が住む関東もいつ災害が起きてもおかしくない場所であるため、防災について常に意識をするべきだと感じました。

このボランティアバスの事業は、神奈川県共同募金会「たすけあい福祉資金」、善意銀行への寄付の配分を受けています。

## 報告 その2 第23回ボランティアのつどい ボランティア祭り

3月9日(土)せやまる・ふれあい館で開催されました。「中学生・高校生ボランティア活動報告会」、「釜石からのメッセージ〜瀬谷ボランティアバス参加者の活動報告〜」や点字・音声訳や手芸体験コーナー、車いすの試乗、カレー、フランクフルト等の販売もあり、ボランティア団体の発表の場となっています。



今年初めての試みとして、横浜市資源循環局と協力してフードドライブ(食品の寄付受付)を実施しました。

## 報告 その3 暮らしやすいまちづくりの計画

第3期瀬谷区地域福祉保健計画も4年目を迎えました。計画をもとに、各地区がさまざまな取組を進めて成果をあげています。今年度は、振り返りを行う重要な年にあたります。

### 令和元年度 地区別計画推進懇談会

日程●令和元年7月31日(水) 14:00~16:30  
会場●瀬谷区役所5階大会議室AB 参加者●71名  
テーマ●「第3期地域福祉保健計画 地区別計画振り返りについて」  
講師●株式会社地域環境計画 代表取締役 田中 孝司 氏

統計や区民意識調査から見える、瀬谷区の50年の変化などについての講話ののち、各地区に分かれてグループワークを実施。各地区の取組について振り返りを行いました。

### ●参加者の感想●

- ★地域の取組のできた・できなかったにかかわらず、その要因を検証することが大事だとわかった。
- ★地域の人がいかに安心して安全に生活できるかを課題としていきたい。等